



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー 2023-2024 年度 前橋北ロータリークラブ会報

2023年10月2日(月) 第1803回

会長 廣木晴久 幹事 上村哲郎

会場監督担当 関口 竜 委員



◇国歌斉唱 君が代
◇ロータリーソング 四つのテスト

◇会員数 78 名 ◇出席 72.30 %

◇お客様ご紹介

R I 2840 地区 米山記念奨学委員会 委員長
高沢 克治 様

◇記念品贈呈

結婚祝 鈴木実会員、五十嵐俊弥会員、
渡辺慎吾会員、嶋田均会員、
山田光揮会員、上野宏史会員、
下田一成会員、藤森聡会員

誕生日祝 富岡政明会員、星野貴会員、
國岡充朗会員、川端智久会員、
岡田賢一会員、豊田浩之会員

◇ニコニコBOX

五十嵐会員…結婚祝ありがとうございます。60年経ち
ました。時に口喧嘩をしながら、夫婦とも
に健康寿命を保っています。

富岡バナ補左…誕生日祝をありがとうございます。
あと10日、元気でいられますように。

湯澤会員…誕生日祝をありがとうございます。
豊田会員…誕生日祝をありがとうございます。
岡田会員…誕生日祝をありがとうございます。
鈴木会員…結婚祝をありがとうございます。
山田光揮会員…結婚祝をありがとうございます。
嶋田会員…結婚祝をありがとうございます。
廣木会長…高沢米山記念奨学委員会委員長様、本日
の卓話をよろしくお願いいたします。
塚田会員…息子が中学軟式野球大会で準優勝となり、
10/14から始まる県大会に出場することになり
ました。地区大会の日が準決勝、決勝の日にな
ります。

高沢様…今日はよろしくお祈りします。

◇幹事報告 上村 幹事

◇委員会報告 親睦委員会 田中伸志委員長
職業奉仕委員会 岡崎副委員長

◇外部卓話 米山記念奨学会委員長 高沢克治 様

◇会長の時間 「10月」

早くも10月になりまして、私の会長の任期の4分の1終わりました。あっという間の3カ月だったと思います。10月は神無月と言われます。神がない月と書いてあり、10月の別名ですが、語源は不明で漢字は当て字だそうです。出雲の出雲大社に全国の神様が集まって1年のことを話し合うために出雲以外に神様がいなくなる月ということ。これは平安時代から言われるようになった民間語源という言語学的な根拠がない当てずっぽうの語源だそうです。出雲では神在月と言われているそうです。しかし出雲に行かず、村や家にいる田の神、家の神的性格を持つ留守神様がいらっしやいまして、すべての神が出雲に行くということではないそうです。

そしてロータリーの10月は地域社会の経済発展月間です。地域社会の経済発展月間はロータリーの7つの重点分野の1つ。貧困地域の経済発展を目的とした能力、スキル向上、生産性の高い仕事の創出、専門職業人のための奨学金支援などを強調する月間です。そして日本独自の米山月間も10月であります。本日は高沢米山記念奨学委員長に卓話をお願いしています。どうぞよろしくお願い致します。

そして昨日は米山奨学セミナーがありました。出席された川口委員長、上村幹事、大変お疲れ様でした。私は急遽、出席できなかったので大変申し訳なく思っています。

そして、9月17日にはR財団地区補助金セミナーがありました。今年度は財団セミナーと補助金管理セミナーを1つにまとめた開催でした。当クラブの今年度の地区補助金事業は前橋中心市街地馬場川通り再開発エリアにベンチを設置するとなっております。予定は来月設置して寄贈式を行う予定です。

前橋の他のクラブの事業は、前橋RC「るなばあく地下道、アート空間プロジェクト」前橋西RCは「一般財団法人犬猫生活福祉財団に対して医療用機器、器具を中心とした物品を寄贈」。前橋東RCと前橋中央RCは共同事業で「児童文化センターにゴーカートを寄贈及び既存ゴーカート清掃」を行うそうです。前橋南RCは「さちの池周辺にベンチの寄贈設置」となっています。実施は10月に行うところが多いようです。

話は変わりますが、前橋駅前のマンション新築工事も、先週からタワークレーンの解体工事が始まりました。建物が高くなるにつれて自分で登っていくマストクライミング方式という形のタワークレーンになります。建物に沿ってマストという支柱をつぎ足しながら登っていきます。マストは順次壁繋ぎという転倒防止を取り付けながら上階に登っていくのですが、解体するときは登ってきた逆の手順で1つずつマストを降ろしながら自分で下まで降りていきます。最後に地上で機械全体を解体するのがマストクライミング方式です。

そのほかにフロアクライミング方式という、ベースになる土台とマストが一緒になっている物をベースごと上階に登っていきます。

登り方はクレーンの本体を最上階に固定してマストとベースを引き上げて目的のフロアで固定した後、クレーン本体を最上部まで引き上げていくという方式です。東京都内の建物、敷地一杯に立っている建物に多く用いられます。解体の方法はまずタワークレーンで部品を吊り上げて屋上に小型解体クレーンを組み立てます。次に解体用クレーンでタワークレーンを解体します。この手順を繰り返してクレーンを徐々に小さくしていきます。最後の解体用のクレーンというのは特殊クレーンで、手作業で解体しエレベーターにのせて下にあります。作業は一週間程度で終わるので気が付くとタワークレーンが消えたような錯覚に陥ると思います。

タワークレーンの運転手は毎朝、運転席まで地上からマスト中のはしごを登っていきます。階数が高くなるにつれて途中の階から渡りをつけるという事もあります。一度のぼると降りるのが大変なので運転席にトイレや冷蔵庫がついており、お弁当を持ってクレーンに登り、仕事が終わる夕方までずっと運転席にいるようになっています。今後は運転席に乗らず、遠隔操作できるような開発もされています。タワークレーンの色は赤白の物を見かけると思いますが、これは航空法によってある一定の高さを超えると赤と白に塗られることになっています。東京の再開発の現場では多くの大型クレーンが立っていると思います。ぜひ東京の方へ行かれた方は上の方を見上げていただきたいと思います。

タワークレーンを支えるマスト

タワークレーンを支える柱です。数十メートル上にある何トンにもなるタワークレーンを、このマストだけで支えるため、とても頑丈につくられています。

マストの中には、タワークレーンの運転室までのぼれるはしごがあります。タワークレーンの運転手は、毎朝このマスト内のはしごを使って、運転席までのぼっていきます。

1日の多くの時間を快適に過ごせるよう、運転室には冷蔵庫やトイレなどもついていて、食事や休憩もとれるようにつくられています。

